

ゆったりと 大らかに やさしく

～自由の学び舎～

# やすづか学園

学園案内

「フリースクールで学ぶ」という選択

学校に行かないから  
といって、未来が閉ざ  
されることは決して  
ありません。



やすづか学園は


社会と関わりを持ち、  
自分らしく生き抜ける  
人間を育みます。





平成8年4月、初代学園長の故三浦良久が当時安塚町長だった矢野学氏と共に、廃校になった菱里小学校を利用する形で、不登校の子ども達の居場所として「やすづか自由学園」を開学。その後、「自由の学び舎・やすづか学園」と名を変え、上越市の全面的支援を受けながら、社会福祉法人上越市社会福祉協議会が公益事業として運営しています。






新潟県上越市安塚区

雪国新潟の中でも有数の豪雪地域である安塚。この雪との関わりから、独特の地域文化と忍耐強く温かな人間性が育まれてきました。

安塚は美しい棚田とおいしいコシヒカリの里です。ここには都会にはないゆったりとした時間が流れています。里山の豊かな自然は四季折々の鮮やかな表情を見せてくれます。自然体験、アウトドアスポーツなど様々な体験活動が待っています。

上越市街地や海までは車で40～50分程度。標高1129mの菱ヶ岳（キューピットバレイスキー場）までは車で10分。上越市内の様々なスポットに足を延ばすことができます。

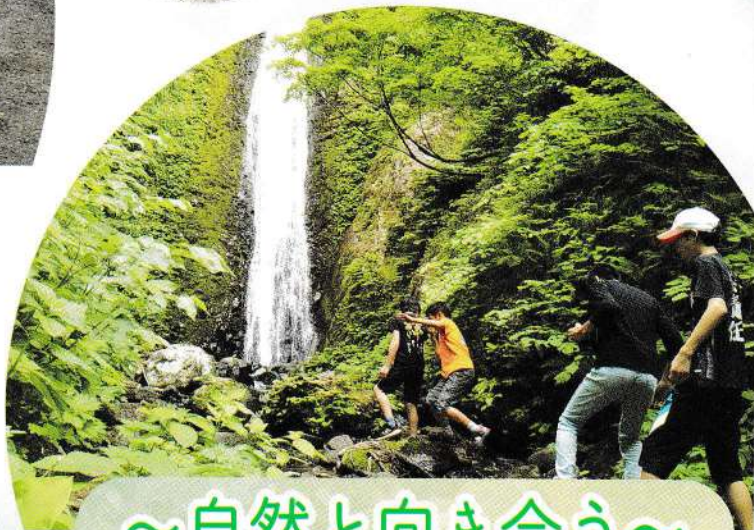


# やすづか学園っ



## ～人と関わる～

社会を生き抜くために必要な力の一つが「人と関わる力」です。当学園は長年にわたり培った地域との信頼関係があります。地域の方々には農村文化体験の講師として来園されるだけでなく、自宅でとれた野菜を届けてくださいます。また支援企業や保育園、介護施設などを訪問したり、イベントに参加したりします。もちろん子ども達同士のつながりが一番、子どもを成長させます。「人と関わる力」は人と関わることでしか身につけません。



## ～自然と向き合う～

大自然と向き合い、地に足をつけた活動を行うことで、目の前にあることに集中して取り組むことができるようになります。外部の雑音や世間の評価で信念がゆるがない人間を育みます。自然に触れ、自然に包まれる。そんな体験が心に変化をもたらします。



## ～生活リズムを整える～

寮生活では、規則正しい生活習慣を身につけます。決められた時間に起床、消灯。バランスのとれた3食の食事。全員そろったら「いただきます」。適度に体を動かし、食事と睡眠をしっかりとります。親元を離れ、自分を見つめなおし、心と体の状態を整えます。



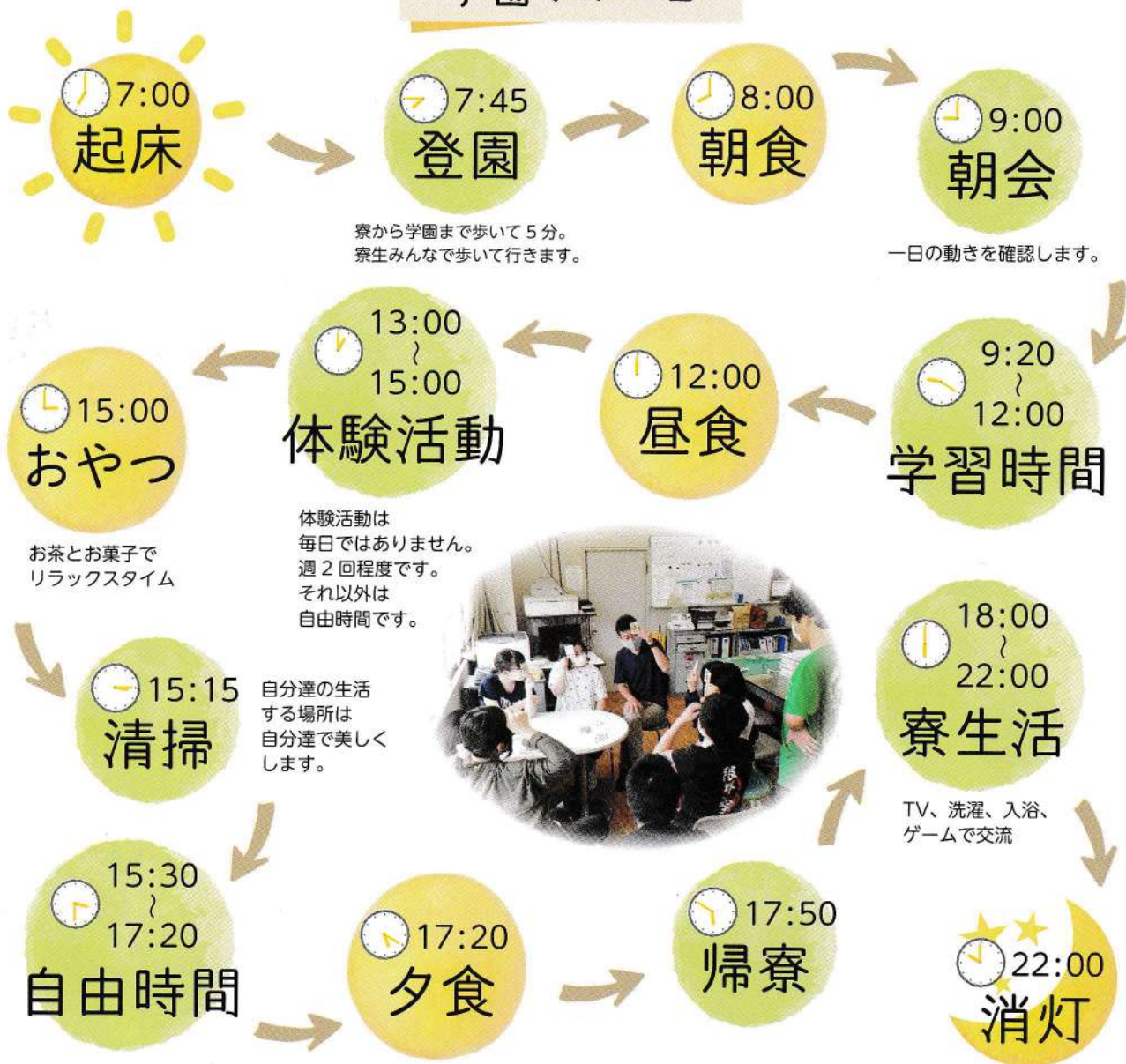
## ～自ら学ぶ～

未来を見据え、新しいステージに向かう準備をします。それぞれの学習進度に合わせて、今の自分に必要な学習をします。自分で考え行動できる人間になるために、自分の課題に向き合い、学ぶ態度を養います。



# てどんなところ？

## 学園での一日



## 修学生の声



第22期生  
大松 映里奈さん

学園生活の一日は起床し、寮から学校へ向かうことからスタートします。  
学校に着いたら調理員の方が作ってくださった愛情たっぷりの美味しい朝ご飯を食べ、そこから平日の場合はお昼まで勉強の時間です。  
スタッフの方が自分のレベルに合わせた内容から優しく丁寧に教えてくださるので勉強に自信がなくても大丈夫です。  
お昼を食べたら、午後からは体験活動、何もない時は自由時間です。  
体験活動ではバンドをはじめ、夏はカヌー、冬はスキーやスノーボードなど、普段あまりできないような様々な経験を書ききれないほどさせていただきました。  
夕食を食べたら皆で寮に帰り、そこからは消灯まで自由時間となります。  
皆でわいわいゲームをするもよし、TVを見るもよし。やはり寮でのこの時間が特に仲間との仲を深めてくれたように思います。

# 体験活動

様々な体験活動を通して、人と関わり、人とつながる楽しさを感じます。

人を信頼することを  
体験を通して実感します。

誰かに喜ばれる体験で  
自分の将来をイメージします。

自然の中で心と体を解放します。  
土に触れ、汗を流します。

そんな様々な体験が  
子ども達を強く優しくします。



誰かに喜ばれる体験で  
子どもは変わる



誰かに喜ばれる体験で  
子どもは変わる

信頼できる大人が周りにいれば  
子どもは変わる



自然とたわむれる  
体験がいっぱい



## 修学生の声



第24期生  
加藤 陸さん

学園は僕にとって、第二の故郷ではなく、自分の家よりも素が出せる第一の故郷となりました。ここに来るまでは一日中ゲームをして、家族とはほとんど話をしない生活でした。しかし、学園にはたくさんの仲間がいて、よくおしゃべりをするようになりました。

初めて来たときはとても緊張していましたが、様々な体験活動やイベントに参加するうちに、いつの間にか他の人と仲良くなりました。そして「ずっとここにいたい」と思うほど、なにげない日常がすごく楽しく充実していました。僕の一番記憶に残っているのは、「雪遊び」です。仲間やスタッフと雪合戦やかまくら作りをしたのが、本当に楽しくて、一生忘れられない思い出になりました。



子ども達に理解のある地域の方々とふれ合います。  
 やすづか学園を支援してくれるボランティア組織、「菱里地域支援委員会」。  
 開学以来、ずっと子ども達を見守り続けている方がたくさんいます。



地域の方と触れ合う



## 修学生の声



第17期生  
五十嵐 航生さん

やすづか学園ではたくさんの体験学習を行っています。カヌー教室、職場体験、稲刈り、音楽活動など様々です。一緒に生活していた仲間やスタッフと行った活動はどれも楽しく、今でも鮮明に覚えています。

数ある体験学習の中でも特に職場体験は自分にとっても大きな影響を与えてくれました。現在、私は保育士という職業についています。体験活動の一つで保育園に職場体験でお邪魔したことがありました。その時の活動がとても楽しく「保育士になりたい」と考えるきっかけを与えてくれました。この学園での活動がなければ保育士になりたいとは考えなかったかもしれません。この学園での活動があったからこそ将来の夢を見つけることができました。

## 学習活動

生徒一人一人の学習進度は違います。  
 それぞれのニーズに応じた  
 学習指導を行います。



## 修学生の声



第26期生  
谷本 亮さん

学園では皆がそれぞれのペースで学習しています。私は学園に来た当初は、学習に対してやる気が湧いて来ず、特に英語が苦手で全く手を付けていませんでした。ですが、授業を受けてみると、学習よりもスタッフや仲間と話をしている時間の方が長く、机に向かうことが苦ではなくなりました。気が付くと少しずつ学習する姿勢が

身についていったように思います。中学三年生になってからは、在籍校の定期テストを学園で受けるようになりました。その結果が自信となり学習が楽しいと感じられ、午後の空き時間や寮でも自習するようになりました。

スタッフや仲間と話をしながら学習することで、知識を得ることとコミュニケーションをとることの楽しさを感じるだけでなく、高校進学や将来のことを考えられるようになりました。



# 自由時間

ここに来たばかりの子は、何をしたいかわからなくて途方にくれることもあります。

しかし、時間の流れがつかめてくると、様々なことができると気が付きます。

例えば、音楽室にある楽器を使って仲間とバンドを組んで演奏を行います。

体を動かしたい子は、体育館でバドミントンやミニバスケ。

一人が好きなのはのんびりとイラストを描いたり、マンガ本を読んだり・・・。

自分がしたいことがない人は、誘われたらとりあえずやってみるのはいかがでしょう!?



## 修学生の声



第15期生  
西田 寛さん

学園での生活の多くを占める自由時間に、何をするかは自分で選びます。漫画を読む、昼寝、バドミントン、バンド活動、裏山でスキー、などなど無数の選択肢がありますが、私にとって最も印象深いのはバンド活動です。

バンドを組もうと誘われた当初、人見知りで内気だった私には不安な気持ちが大きくありました。しかし仲間と練習を重ねるうちに徐々に自信がついてきました。そしてライブを成功させることができたとき、自分を表現するということの楽しさを初めて知りました。

人前でなにかを成し遂げられたという自信は、その後の高校・大学生活の節々で自分を助けてくれました。そして受け身だったかつての自分から積極的な今の自分へと、ゆるやかに変化させる助けになったと感じています。



## 寮生活

寮生活を通して基本的な生活習慣を身につけ、集団生活のマナーや人間関係作りを学びます。家では親に頼り切っていた子が自ら起床し、洗濯



や掃除など身の回りのことを自分でできるようになります。子ども達が一つ屋根の下で笑い合い、時にはぶつかり合います。

人と人は、関わり合うことで気づき、成長します。

## 修学生の声



第10期生  
甌澤 知世さん

私は学園で初めて他人との寮生活を体験しました。親元を離れての寮生活。洗濯は自分でしなければなりませんし、消灯や起床、入浴の時間も決まっています。しかし、いざ始まった共同生活は私の不安を一掃してしまうほど楽しいものでした。

交流室に仲間が集まると、毎晩のようにトランプやUNOをして、いろいろな話題で盛り上がりました。お風呂では一緒に大きな浴槽につかり、時には水を掛け合うこともありました。まるで仲間と毎日銭湯に来ているような感じでした。その一方で共同生活のルールやマナーを守り、互いの気持ちを尊重し合うことがとても重要だと分かりました。特に、寮生活を通じて、相手を思いやることの大切さを学びました。

# 見学に来てみませんか



新しい環境で生活するにあたって、一番気がかりなことは、どんな人がいるのか、どんな生活を送っているのか？ではないでしょうか。やすづか学園は土日祝日を除く平日であれば、いつでも見学が可能です。子ども達の学習の様子、体験活動の様子、スタッフとの関わり方、特別ではない普通の日々を見に来てください。自分の目で確かめて、ここでならやり直せる、新しいスタートができそうと思ったら次のステップ⇒体験入学を試してみませんか？

見学の申し込みは平日、毎日受け付けております。

## 保護者の声

第26期生 保護者 M.Yさん

私達親子が学園に初めて来た日のことは、今も鮮明に心に残っています。そこにはキラキラした笑顔がたくさんあって、愛情たっぷりの温かいご飯があって、息子以上に私が癒やされた日でした。ギュッと握っていたものを「もう放して大丈夫だよ～」と言われたようなそんな日でした。体験入学終了日の夕方に息子を迎えにいった際には「めっちゃ楽しかった！俺ポジティブに生きてく事に決めたわ！」と自ら報告してくれました。「これまであったことはここに来るためだったのかもしれない。今しかできない楽しい事をたくさん体験して、ここでしか会えない人とたくさん会えるね。よかったね。」とワクワクしながら帰ったのを今でもよく覚えています。その時私は、息子はもう大丈夫だと確信しました。

当学園は  
本人の意向を無視した入学は  
お断りしています。

電話番号（相談専用）

025-595-2123

メールアドレス

[jsk-yasudukagakuen@jouetushisyakyo.jp](mailto:jsk-yasudukagakuen@jouetushisyakyo.jp)



**アクセス**

**🚗 自家用車で来園の場合**

関越自動車道/六日町ICより90分  
北陸自動車道/上越ICより40分

**🚆 電車の場合**

ほくほく線/虫川大杉駅下車  
(学園より送迎車で迎えに行きます。車で15分。)

**住所**

〒942-0539 新潟県上越市安塚区円平坊9 4 1  
社会福祉法人 上越市社会福祉協議会  
自由の学び舎 やすづか学園  
Tel. 025-593-2004  
ホームページ: <https://yasudukagakuen.com>



学園寮「菱の里」



やすづか学園

